

令和5年度 本年度研究の方針

昨年度、一昨年度の実践を検証し、以下の3点を本校の課題として挙げた。

- ・「自信がない」「失敗やミスを気にする」子供達の実態があり、高学年になるにつれてそれが顕著になる。
- ・学習に対して主体性が低い。子供達が「自分達が学習の主体である」という意識が低い。
- ・資質、能力の育成が系統立っていない。各学年で積み上げたい力を整理し、指導する。

昨年度からは、以下に示すように3年間の研究の見通しを立てて学校教育目標「主体的・創造的な子の育成」の実現に向けた実践を展開している。令和4年度は、上記に示した課題解決に向けて“主体性”へアプローチする年とした。子供達が「やってみたい」という思いや願いを持ち、それを子供達にまかせ、教師が適切に支援しながら実践することを大事にした。

そして、本年度は、“創造性”へアプローチしていく。昨年度に引き続き、子供の主体性を伸ばす支援をしながら、学習材を「地域にかかわる人・もの・こと」とし、探究過程における「まとめ・表現」までのプロセスを意識して地域に根差した生活科・総合的な学習の時間の実践を展開していく。昨年度現職教育で作成した「有功東で大切にしたい資質・能力」を子供と共有し、学年で積み上げたい力を指導していくことに力を入れていく。

また、どの教科の授業も学級づくりが基盤になるという考えのもと、生活科・総合的な学習の時間以外の教科領域も研修していく。各教科の基礎基本を土台として、生活科・総合的な学習の時間と連動させながら子供達の学力が向上する実践を目指す。

<3年間の研究方針の見通し>

	令和4年度 「主体性」へアプローチする年	令和5年度 「創造性」へアプローチする年	令和6年度 「主体性・創造性」を発揮する年
ゴールのイメージ	子供たちが「学習や学校生活は、自分達で創るものだ」という意識に変わっている。	子供たちが「より良い学習・生活を創るためにはどうすればよいか」を考えている。	子供たちが主体的・創造的に学習している。
主な手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・「子供がやってみる、チャレンジする」機会を、学習や生活の場で積極的に提供する。 ・主体的に考えて行動した姿を褒め、評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個の興味や関心、学びに応じた適切な支援を行う。 ・追求できる機会の提供。 ・主体性を発揮できる環境づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個の適切なみとり ・主体性、創造性を発揮できる環境づくりと適切な支援。

各実践の子供の姿から、「子供の主体性」が見られたかを検証する

各担任が主体性と創造性を発揮する姿をイメージし、その実現のためにどんな手立てをとるとよいか考え、実践していく。研究授業では、参観者は子供達の発言や姿から「主体性を発揮できているか」「創造的な姿が見られたか」をみとる。そして協議会では、授業記録をもとに、「子どもの本気の姿が見られた場がどこだったか」、「なぜ子供の主体性を引き出したのか」等、授業者の手立てとその効果を分析する。年度末に、各実践を振り返り、「子供達が主体性や創造性を発揮するための有効な手立て」を検証する。